

第123回日商簿記2級 第1問 仕訳問題類題 問題

次の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は次の中から最も適切と思われるものを選ぶこと。

現金	当座預金	受取手形	売掛金
売買目的有価証券	未収入金	前払金	仮払金
繰越商品	前払手数料	不渡手形	支払手形
買掛金	未払金	前受金	仮受金
未払利息	借入金	貸倒引当金	修繕引当金
売上	受取手数料	有価証券利息	修繕引当金戻入
仕入	貸倒引当金繰入	修繕費	支払利息
手形売却損	貸倒損失		

- 決算にさいして当座預金勘定の残高を確認したところ、当社の帳簿残高は ¥ 700,000 であり、銀行側の残高証明の金額は ¥ 930,000 であった。残高の不一致の原因として次の事実が判明したので、修正の処理を行った。

 - 受取手形の支払期日到来にともない、銀行で回収した額 ¥ 100,000 が当方に未達であった。
 - 買掛金の支払いのために振り出した小切手 ¥ 50,000 が決算日現在銀行への呈示がなされていなかった。
 - 備品購入にかかわる未払金支払いのために振り出した小切手 ¥ 80,000 が未渡しのまま経理部の金庫に保管されていた。
- 得意先足利商店に対して前期に償還請求をしていた不渡手形の額面 ¥ 800,000 と償還請求費用 ¥ 30,000のうち、¥ 200,000 を現金で回収したが、残額は回収の見込みがなく、貸倒れの処理をした。なお、貸倒引当金は ¥ 500,000 設定されている。
- (試験範囲の改定により試験範囲外となったため削除)
- (試験範囲の改定により試験範囲外となったため削除)
- 機械の定期修繕を期末に行い、代金 ¥ 800,000 は翌月末の支払いとした。前期末までに計上された修繕引当金は ¥ 500,000 である。

・解答

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	当座預金	180,000	受取手形 未払金	100,000 80,000
2	現金 貸倒引当金 貸倒損失	200,000 500,000 130,000	不渡手形	830,000
3	(試験範囲の改定により試験範囲外となったため削除)			
4	(試験範囲の改定により試験範囲外となったため削除)			
5	修繕引当金 修繕費	500,000 300,000	未払金	800,000

・解説

1. 銀行勘定調整表に関する問題です。

本問は、一見難しいように見えますが、ひとつひとつの取引ごとに考えていけばそれほど難易度の高い問題ではありません。それでは、まず①の取引から考えていきましょう。問題文に「受取手形の支払期日到来にともない、銀行で回収した額 ¥ 100,000 が当方に未達であった」とあるので、【連絡未達】だったことが分かります。

【連絡未達】に関する取引は修正仕訳を切る必要があるので、決算期末において以下のような仕訳を切ります。

★解答①…連絡未達

(借) 当座預金 100,000 / (貸) 受取手形 100,000

では次に②の取引を考えていきましょう。問題文に「買掛金の支払いのために振り出した小切手 ¥ 50,000 が決算日現在銀行への呈示がなされていなかった」とあるので、【未取付小切手】だったことが分かります。

【未取付小切手】に関しては、小切手を振り出した時に当座預金勘定を減少させる仕訳を切っているのですが、決算期末において修正仕訳を切る必要はありません。

★解答②…未取付小切手

仕訳なし

では最後に③を考えていきましょう。問題文に「備品購入にかかわる未払金支払いのために振り出した小切手 ¥ 80,000 が未渡しのまま経理部の金庫に保管されていた」とあるので、【未渡小切手】だったことが分かります。

【未渡小切手】に関する取引は修正仕訳を切る必要があるため、決算期末において以下のような仕訳を切ります。

★解答③…未渡小切手

(借) 当座預金 80,000 / (貸) 未払金 80,000

上記①②③の仕訳をまとめると解答の仕訳になります。

銀行勘定調整表に関する問題は、第 100 回の問 4や第 101 回の問 1、第 105 回の問 4、第 111 回の問 2、第 113 回の問 4、第 115 回の問 5、第 116 回の問 5、第 125 回の問 3、第 133 回の問 3でも出題されているので、あわせてご確認ください。

2. 不渡手形に関する問題です。

この問題は、前期に償還請求をした際に切った仕訳をまずイメージしてから考えると分かりやすいです。下記の仕訳のうち、**借方に計上された 830,000 円の不渡手形勘定を適当な勘定に振り替えます。**

☆参考・前期に不渡手形を計上した仕訳

(借) 不渡手形 830,000 / (貸) 受取手形 800,000
(貸) 現金など 30,000

では早速、順番に考えていきましょう。まず問題文の「**¥ 200,000 を現金で回収したが**」という一文から不渡手形 830,000 円のうち、200,000 円を現金で回収したことが分かります。

★解答①

(借) 現金 200,000 / (貸) 不渡手形 200,000

次に、問題文の「**残額は回収の見込みがなく、貸倒れの処理をした。なお、貸倒引当金は ¥ 500,000 設定されている**」という一文から、不渡手形の残り 630,000 円のうち、500,000 円に関しては貸倒引当金を取り崩し、130,000 円に関しては貸倒損失を計上して処理します。

★解答②

(借) 貸倒引当金 500,000 / (貸) 不渡手形 630,000
(借) 貸倒損失 130,000

以上、①②の仕訳をまとめると解答になります。

不渡手形に関する問題は、第 117 回の問 1や第 128 回の問 5、第 130 回の問 2、第 133 回の問 5、第 138 回の問 2、第 142 回の問 3でも出題されているので、あわせてご確認ください。

3. (試験範囲の改定により試験範囲外となったため削除)

4. (試験範囲の改定により試験範囲外となったため削除)

5. 固定資産の修繕に関する問題です。

修繕に関する問題は、支出した費用を「収益的支出」と「資本的支出」に分けて処理しましょう。

■収益的支出：定期修繕など固定資産の諸機能を維持するための支出 → 修繕費・修繕引当金で処理

■資本的支出：耐用年数を延長させたり、その価値を高めるような支出 → 固定資産の増加として処理

本問は、問題文の「**機械の定期修繕を期末に行い、代金 ¥ 800,000 は翌月末の支払いとした**」から、この 800,000 円が**収益的支出**であることが分かります。

また、問題文の「前期末までに計上された修繕引当金は ¥ 500,000 である」から 500,000 円の修繕引当金が設定されていることが分かります。

よって、800,000 円のうち 500,000 円については修繕引当金を取り崩して処理し、残額の 300,000 円については修繕費で費用処理します。

★収益的支出に関する仕訳

(借) 修繕引当金 500,000 / (貸) 未払金 800,000

(借) 修 繕 費 300,000

なお、本問は資本的支出は発生していないので、上の収益的支出の仕訳がそのまま解答仕訳になります。

固定資産の修繕に関する問題は、第 100 回の問 1や第 102 回の問 4、第 110 回の問 1、第 111 回の問 5、第 115 回の問 3、第 119 回の問 2、第 124 回の問 1、第 132 回の問 1、第 137 回の問 3、第 139 回の問 1、第 139 回の問 4、第 141 回の問 2、第 147 回の問 1、第 149 回の問 3でも出題されているので、あわせてご確認ください。